

# 全国ホルスタイン改良協議会 第41回 通常総会

## 報告事項

令和元年度事業報告並びに収支決算報告について

## 協議事項

令和2年度事業計画案並びに収支予算案について

全国ホルスタイン改良協議会（岡嶋建一郎会長）は2月21日、家畜改良事業団会議室において第41回通常総会を開き、前年度事業報告並びに収支決算報告、令和2年度事業計画案並びに収支予算案について協議し、すべて原案どおり可決承認された。

事業報告では、ジャジング・スクールを群馬県で開催するため、地元乳牛改良協会並びに畜産協会の協力のもと準備を進めていたが、令和元年9月に国内で26年ぶりとなるCSF（豚熱）の感染が確認され、その後も感染の範囲が拡大していたことから、家畜防疫・衛生面に配慮して開催中止（自粛）したことが報告された。これにより、メイン行事であるジャジング・スクールを開催しなかったことで、当該年度の収支が大幅に減少したことが報告された。

## ジャジング・スクールは群馬県で開催

本年度事業計画では、ジャジング・スクールを改めて群馬県で開催することについて協議し、同県ではCSFの感染が確認されていないことに加え、豚への感染リスクが高い地域においては、ワクチン接種を実施することでCSFの発生を予防していることから、昨年開催を見送った群馬県において令和2年5月29日（金）～30日（土）の2日間、令和2年度ジャジング・スクールを開催することを提案し可決承認された。なお、全国的に感染の範囲が拡大しているコロナウイルス感染症については、その動向を注視しつつジャジング・スクールの開催に備えることが極めて重要であると付け加えられた。

また、会員の拡大推進について、エリートジェネティクス株式会社（細野淳代表取締役）から入会申し込みがあったことを報告し、新たな賛助会員として加入することが可決承認された。加えて、第15回全日本ホルスタイン共進会の開催推進として前回の北海道大会と同様に、ホルスタイン種第1部から第12部までの出品牛で1等賞1席に入賞したものに対し、副賞を贈呈することが報告された。なお、引き続き、セミナー・酪農講演会を開催すること、国内優良遺伝子の有効活用が図れるよう情報発信を行っていくことが報告され、全て提案どおり可決承認された。

## 第10回全日本ブラックアンドホワイトショー開催へ

その他、協議会規約第15号に基づく議長の選出・就任について協議が行われ、これまでは協議会長が議長となると規定されていたが、次回からは出席会員から会長が選出した者が議長として就任すること、全日本ブラックアンドホワイトショーについては、前回大会となる第9回を予定より1年遅れた平成30年（2018年）に開催したが、次回第10回は当初の予定から5年後の令和4年（2022年）に開催することが報告された。なお、認定ジャッジマンは、5年に2回のジャジング・スクール参加を認定ジャッジマン規定により義務付けているが、条件を満たせずその資格を失効した者に対する救済措置として、再度ジャッジマン認定を希望する者は、一定の条件を満たした者に限り、再認定することを認定ジャッジマン規定に内規すると報告された。

## 酪農講演会を開催

通常総会の記念公園として、（公社）北海道酪農検定検査協会乳牛検定部電算課長の山口諭氏を講師に招き、「乳用牛のゲノミック評価および牛群検定（後代検定）の現状とその有効活用」と題し、講演が行われた。